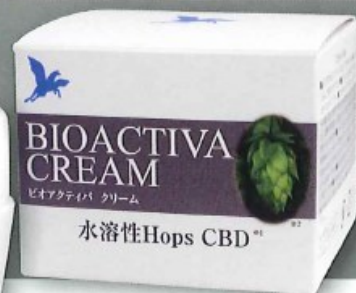


BIOACTIVA CREAM

バイオアクティバ クリーム

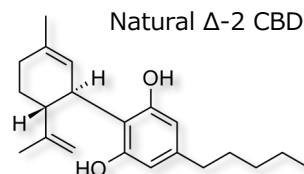
水溶性Hops CBD

※ 水溶性Hops：ホップエキス(CBD：カンナビジオールを含む)配合(保湿成分)



従来のCBD (Cannabidiol / カンナビジオール) は、ヘンプ (大麻草) から抽出する際にTHC (麻薬成分) を分離する必要があり、製品によりその純度に問題があること、脂溶性 (血液に溶けず、脂肪・肝臓に蓄積する) のオイル、錠剤など経口摂取 (体内への吸収率が低い) が主でした。バイオアクティバクリームは「ホップ由来」の安全性と「水溶性」により摂取効果の高い皮膚吸収可能なクリームとして開発されました。

CBD (Cannabidiol / カンナビジオール) は生理活性物質「カンナビノイド」の1種 (現在100種類以上) で、CB1/CB2受容体 (裏面参照) の発見 (1988/1993年) から機能 (過剰な刺激・炎症・トラウマから脳を保護) が解明され、カンナビノイド欠乏による疾患発生のメカニズム解明 (2004年)、ミトコンドリア (生命維持の源泉) のCB1受容体発見 (2012年) により、薬草療法やその代替療法 (運動・整骨・指圧・断食) の効果への介在、腸内フローラと脳の対話促進など、生体恒常性 (体温・血糖・免疫) 維持に不可欠なものと解明されています。



CBDによる主な効果

- 鎮痛 (炎症緩和・神経保護)
- 抗老化・アンチエイジング作用

CBD応用医薬品・その他効果

- てんかん治療薬
- 神経変性疾患 (多発性硬化) 治療薬
 - ・ 抗うつ作用
 - ・ 不眠症改善
 - ・ 依存症 (アルコール・薬物) 改善

使用方法・成分

スパチュラで適量を手に取り、気になる部分になじませる。
犬・猫への使用についてはご相談ください。

水、水添ポリテセン、イソハキサン酸セシル、ステアリン酸、グリセリン、セテarylアルコール、ポリリルアト60、ステアリン酸グリセリル(SE)、ホップエキス、ジメチコン、水溶性ポリオクサリカン、コシカルシフェロール、ツボクサエキス、オウゴン根エキス、イドリ根エキス、カンゾウ根エキス、チャ葉エキス、ローズマリー葉エキス、カミツ花エキス、BG、グリセリルリン酸2K、水酸化K、イソハキシルグリセリン、カプリル酸グリセリル、フェニキシタノール



植物特許 (US Patent #PP31,477 P3) 取得のホップ (中でも生物活性が高い花を選定) から抽出された『Kriya®Hop CBD』を採用。

原料提供: トキワ漢方製薬株式会社

商品名: バイオアクティバクリーム
容量: 50 g (クリーム)

価格: 7,000 円 (税別)

自律神経と免疫力維持に不可欠なCBD

CBDはカンナビノイドの一種 (Cannabidiol / カンナビジオール)

神経系の調節因子 (カンナビノイド / シナプスに作用するマリファナ類似物質) により、全身の神経細胞 (1,000億個以上) 内にあるカンナビノイド受容体がカンナビノイドに反応する仕組み (エンド・カンナビノイド・システム / 全身の情報ネットワーク) として、自律神経系・内分泌系、免疫系の神経伝達 (情報処理) を制御していることが、1990年代に大麻研究者により発見されました。

体温など体内の恒常性維持、外部から肉体的・精神的なストレスを受けた際に心身の健康状態を調節する働きにより、健康状態を保っています。これは脊索動物のホヤ類、脊椎動物の魚類、両生類、爬虫類、鳥類、哺乳類のすべてに存在し、食欲、痛み、免疫調整、感情制御、運動機能、発達と老化、神経保護、認知と記憶など、全身の細胞同士のコミュニケーション活動を支えています。

カンナビノイドは体内で生成 (内因性カンナビノイド / 細胞膜のリン脂質からジアシルグリセロールリパーゼα酵素によって作られる2-アラキドノイルグリセロール) され、機能後消滅 (消費) します。ストレスや生活習慣の乱れなどにより体内で十分なカンナビノイドを作ることができなくなる (内因性カンナビノイド欠乏症) ことにより、頭痛・だるさ・疲労感・吐き気・筋肉の痛み・消化器の不調・気持ちの落ち込み・イライラ・肌荒れや肌トラブル・記憶力の低下・不眠症など、様々な症状が現れます。

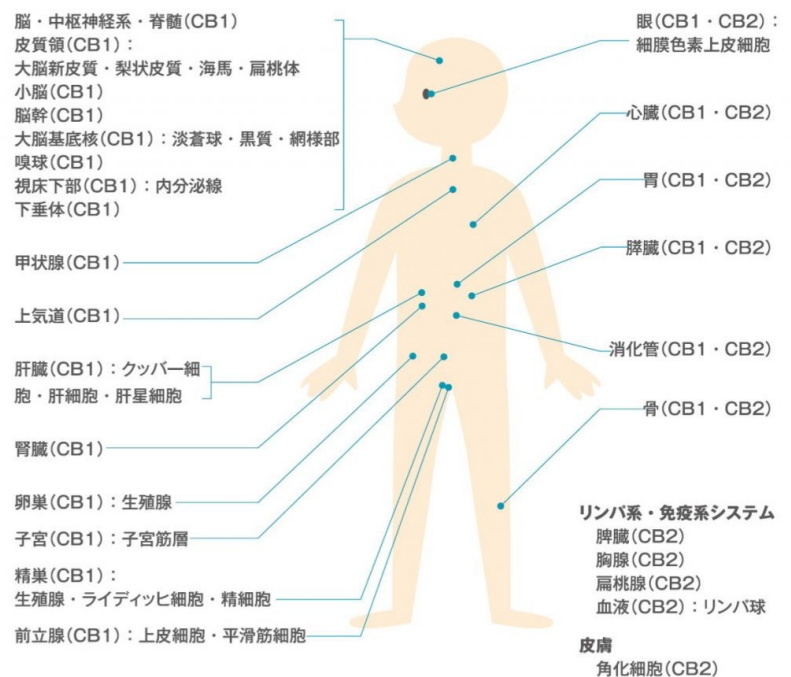
自律神経系・内分泌系 (CB1受容体)

カンナビノイドは視床下部 (間脳) で特に豊富に分布しており、この部分は自律神経系や内分泌系をコントロールする生存機能の中枢部で、カンナビノイドに反応するCB1受容体を持ちます。また、脂肪細胞・肝細胞・血管平滑筋細胞・小腸・肺・子宮・精巣にも存在します。

過敏性腸症候群、線維筋痛症、片頭痛がカンナビノイド欠乏症によって引き起こされているというエビデンスが多く報告されています。

免疫系 (CB2受容体)

脾臓・扁桃腺・リンパ節・マクロファージ・Bリンパ球・ナチュラルキラー細胞・好酸球菌などの白血球 (免疫系) はカンナビノイドに反応するCB2受容体を持ちます。



植物性 (外因性) カンナビノイドによる補完

内因性カンナビノイドは生活習慣の見直しとして「適度な運動」「十分な睡眠」「良質な脂質 (オメガ6、3) 摂取」により生成を促すことが期待でき、「植物性カンナビノイドの摂取」も有効な手段です。従来大麻由来の劣悪なCBD製品 (麻薬成分含有、重金属・農薬含有、リキッドの防腐剤・溶剤含有、合成品) がある中、ホップ由来の『Kriya®Hop CBD』による安心・安全なCBDを供給可能となりました。また、内因性カンナビノイドは消費されますが、植物性カンナビノイドは消費されず、エンド・カンナビノイド・システムの継続的な活性化が期待できます。

健康維持の一助として、**バイオアクティブクリーム**をご使用ください。